

「T I C A D 3 0 周年記念行事」
林外務大臣 基調講演
～アフリカとの戦略的なパートナーシップの
構築に向けて～
(令和5年8月26日)

御列席の皆様、本日は御多用の中、本行事に御参加いただき、厚く御礼申し上げます。

今、国際秩序は重大な挑戦にさらされ、我々は、これまで世界の繁栄と平和を支えてきた国際秩序の根幹が揺らぐという、歴史の転換期に直面しています。

これに伴い、国際社会におけるアフリカの位置づけも大きく変化しています。今やアフリカは国際社会における主要なプレーヤーとして、その重要性と発言力を高めるようになりました。また、パンデミックやロシアによるウクライナ侵略といった複合的な危機により、アフリカを含む「グローバル・サウス」と呼ばれる国々が甚大な影響を受ける中、「人」を中心に据えたアプローチを通じて幅広い課題に協力する姿勢が、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守り抜くために、ますます重要になっています。

日本は、G7議長国として、アフリカの「声」を直接聞くことを重視しており、5月の岸田総理によるアフリカ諸国歴訪、アフリカ連合（AU）議長国であるコモロのG7広島サミット参加に続き、私自身、今月初め、南アフリカ、ウガンダ及びエチオピアを訪問し、各国との連携を強化してまいりました。

TICAD設立以降、日本はアフリカの持続可能な開発を支援してきましたが、この友好関係を土台とし、今後、アフリカとの関係をどう発展させていくべきか。アフリカとの間で戦略的なパートナーシップを構築し、国際社会の様々な課題解決に向けて共に知恵を出し、行動する。私は、これこそが「今後日本とアフリカはいかなる関係にあるべきか」という問いへの答えだと考えています。TICADはそのようなアフリカ外交の中において基軸となるべきものです。

昨年8月のTICAD8に、私は総理特使として出席し、日本がアフリカと「共に成長するパートナー」として、アフリカの課題克服に共に取り組むことを表明し、ポスト・コロナのアフリカの持続的な成長に向けた道標をお示ししました。

TICADは、継続性のあるプロセスです。2年後のTICAD9、またその先を見据えて、日本が行っていく取組について、3点お話ししたいと思います。

(ア) 変わらないもの：人への投資

第一に、T I C A Dの強みは、「人への投資」です。「開発は『人』に始まり、『人』に終わる」との日本の姿勢は、これからも揺らぎません。個々人を大事にし、未来を切り拓く力を育み、人のつながりを大事にする。この精神は脈々と受け継がれています。

このようなT I C A Dの精神を、日本とアフリカの将来を担う若者たちに託すことは重要です。「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ」、いわゆるA B Eイニシアティブは日本の代表的な取組です。アフリカの青年に、日本での専門教育やインターンの機会等を提供し、将来のアフリカの屋台骨を担う人材を育てようというもので、今やその人数は約6, 700人を超えました。本日もアフリカからの留学生及び修了生に参加いただいています。

また、私自身、エチオピアにおいて、カイゼン・イニシアティブによる個人の能力開発を通じた企業競争力強化の取組を視察しました。更に、昨年立ち上げた「アフリカ未来の産業人材イニシアティブ」では、アフリカにおける5 S・カイゼン^{ゴエス}に加えて、自動車関連技術等の実践的なスキルを培うための研修を実施しています。

食料・エネルギー価格高騰がアフリカの土台を揺さぶる中、アフリカ自身による食料増産のためには農業人材育成も大きな柱です。我が国はアフリカ各地において、コメ増産イニシアティブ（CARD）を推進し、生産技術の移転から技術指導の可能な普及員の育成まで、幅広い人材育成を実施しています。

（イ）促進していくもの：様々なステークホルダーの関与

第二に、様々なステークホルダーの関与はこれまで以上に重要となっています。アフリカは、我が国企業による一層の進出を熱望しています。本日お集まりの企業、関係機関の皆様を含め、本年6月に改定された開発協力大綱にもあるとおり官民の一層の連携が求められています。

アフリカの社会課題解決に貢献するイノベーションを創出するためには、スタートアップが輩出される体制の構築を推進することも重要です。日本は、「プロジェクトNINJA」等を通じ、アフリカにおいて能力強化研修等を実施し、既に100社を超えるスタートアップを支援しています。

また、国際社会が直面する国際保健や食料・エネルギー分野の問題解決に向け、国際機関や市民社会との連携は欠かすことはできません。国際的な官民連携として、G7広島サミットでは、熱帯病対策等のためのグローバルヘルス技術振興基金への新規プレッジを含め、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成のために総額75億ドル規模の貢献を表明した上、感染症危機対応医薬品等（MCM、Medical Countermeasures）への公平なアクセス確保のためのデリバリー・パートナーシップを立ち上げ、現在、各国、国際機関等と協議を進めています。

さらに、「アフリカ・グリーン成長イニシアティブ」としてアフリカにおける地球規模課題への取組の後押しも進めており、実際に、日本企業による再生可能エネルギープロジェクトも進んでいます。また、民間企業を中心としたJCM（二国間クレジット制度）促進に向け、アフリカにおけるJCMのパートナー国の拡大も進めています。

(ウ) 変革していくもの：戦略的なプロセスとして

第三に、以上申し上げた開発及び経済面での関係強化に加え、冒頭申し上げた激動する国際情勢を踏まえ、我が国外交の中でアフリカを戦略的に位置付けるプロセスとしてT I C A Dを捉えていくことが重要になっています。

T I C A Dは、我が国が目指す、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化という方針をアフリカ諸国と共有し、国際社会の諸課題を議論する場と位置づけていくことが重要です。こうした諸課題には、最近急速に増加しつつあるアフリカにおける政変や紛争も含まれます。また、経済安全保障、気候変動など、我が国とアフリカ各国の状況に照らした議論も行っていく必要があります。

特に、アフリカの平和と安定は、アフリカの持続可能な成長のみならず、先ほど言及した日系企業のアフリカ進出や官民連携の推進に繋げ、好循環を生み出していく上で不可欠です。この点、スーダンやニジェールからの邦人の退避等、在留邦人の安全確保は最優先です。さらに、警察制度構築、刑事司法分野等の人材育成といった制度作り支援を通じ、アフリカのガバナンス向上を後押しすることも重要です。

私は、外務大臣就任時に、日本外交の新しいフロンティアを切り拓くと宣明いたしました。アフリカとの関係強化は、私の最優先課題の一つです。

本日のパネルディスカッションでは、T I C A D 3 0年の軌跡を振り返り、現在の課題を踏まえて、日本とアフリカの未来に向けた活発な議論がなされることを期待します。

そして、2 0 2 5年に横浜で開催されるT I C A D 9を視野に入れ、本日の皆様の御議論を、アフリカとの戦略的なパートナーシップの構築に繋げていく考えです。

御清聴ありがとうございました。

(了)